
J K(×2)が異世界へ行きました。

H L

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

JK(x2)が異世界へ行きました。

【Nコード】

N8439Y

【作者名】

H L

【あらすじ】

女子高生が突然の異世界トリップ。

普通なら取り乱して泣くところ…ですが、それが二人なら？

仲仔なJKは二人揃えば無敵です！

「異世界？余裕〜（笑）」

あげばよ×クールな今時JK達が好き勝手して、それに振り回される王子様やら宰相様やらのお話し。

重要なのはつけまとかクレンジングとか日焼け止めとかがアルかナイか。

(^ ^) プロフ

【しゅりたす】

岬 朱里 (みさき しゅり)
JK?

好き

買い物
マンガ
携帯ラブ!
ダリン(" "(照り / / /
リツたん

特技

メール早打ち
妄想
寝ること

【りつちやむ】

赤坂 理津 (あかさか りつ)
JK?

好き

メイク

猫

黒

乙ゲー

美白

特技

歌

料理

18禁(/ \ (照り / / /

しゅりたす×りっちやむ /

最強仲仔 よろぴく ^ ^ (/

編集 / しゅりたす W W W

しゅりたす×りっちやむ / bio ぶり抜粋。

(^ ^) プロフ (後書き)

初投稿です。よろしくお願ひします。

始まり？（プロローグ的な？）

目開けたら、周りには怪しげなおっさんたち。みんな杖持ってて
変な格好。

と、イケメンな男が1人。

イケメンなのに変な格好。

軍服？軍服コス！？なんか黒くて悪役っぽい！

見回すと、外国の神殿みたいな建物だった。

えー？

オッサンたちが何かざわざわしてる。どうしたどうした？

「お前たちは一体…」

お前こそ一体…とか言ったら怒られそうなので、黙って見つめるにとどめた。

先程のイケメンのセリフを反芻する。

”お前たちは一体…”

”お前たちは一体…”

”お前たちは一体…”

「やばー…超いい声」

「はっ」

「や、なんでも」

黒髪なびかせて、この男色気パねえ…。

うう…！

「いやーんリツたん！ヤバいんだけど！キタコレ！」

右隣のリツたんの腕をバシバシ叩いたら、超冷たい目で見られた！

「キタコレ言うな。キモい」

「ひどっ。せつかくの胸きゅんを！」

私が1人きゅんきゅんしてる間、隣のリツたんことリツさんは涼しい顔で周りを観察していた。

「何こり」

リツたんの問いかけにイケメンは無表情に答えた。

「ヴェール国の王宮内にある神殿だ」

始まり？（来ちゃった。）

「ヴェール国だってよ、リツたん」

首を傾げるリツたん。

「ヨーロッパ的な？」

「さあ…アラビアンだったらどうしょ？あそこらへん意味わかんないんだけど」

「え、あたしヨーロッパらへんもよくわからんけど」

ダメダメな二人が揃っても何もわかんない、と。

「朱里ググレ」

「おけー」

カチカチカチカチカチカチ…

あはん。 圏・外

「リッさん無理ッしたあー」

「ちッ使えねえ」

「携帯が、だよねもちろん」

リッたんは時たまドS…

てかiモード繋がらん！やっぱ外国か！！電波悪いだけー ！？

リッたんが怖いからイケメンに話し掛けてみた。

「ねえねえ」

「なんだ」

またまたざわつくオッサンども。

始まり？（来ちゃった？）

「日本て知ってる？」

「にほん？」

「アメリカってわかる？」

「あめりか？」

はい、発音が大変可愛らしいです。

「リッたん………思いたくないけどコレってさあ」

頭の中で1つの単語が弾き出されました。

「言ってみ」

「えっとおゝ最初に”い”がついてゝ、最後に”ぷ”がつくのかな

「んだ？」

「さあ？」

リットン即答。

「一瞬でいいから考えようよ」

「めんど…」

リットンクール。

「正解は異世界トリップ！！」

「ないわー…」

「私もそう思う」

でもさあ

チラリとイケメンと神殿を見て、もう一度リツたんを見た。

「ぼくね？」

「ぼい」

だよね。

リツたんも色々諦めて認めたい。

というわけで、こちら異世界に来ちゃったみたいです。

始まり？（とりあえず。）

その後。

「てかマジで？リアルに異世界？なんか信じられないんですけど」

夢オチじゃね？

だって異世界とかトリップとか王国とか、小説の中の話やーん。

「けど二人揃って学校帰りに海外とかないじゃん。なんか日本語通じてるし」

冷静なリツたんさすが！でもそれなら…

「マジ？あーあーどうせなら旅行バッグで来たかったしい。こなんん（学校鞆）とかマジ萎えー」

メイク落としは？ワックスは？アイロンは？充電した
！コンセントなんてもちろんないよね…

「お、ラッキー。あたしセブンで買ったナプキン入れ っぱ。終わ
ったけど。朱里、カラコンある？」

「無いっすー。メイクポーチとリップ入れてただけで も褒めて〜」

「おい」

学校鞆を各々漁る私たちにちょっとイラついた声をか けてきたの
はさっきのイケメン。

始まり？（とりあえず。）

「はい？」

「お前たち、さっきから何を二人だけで騒いでいる？ ……おい術者共！」

イケメンは私たちに尋ねたかと思ったら、後ろを振り返ってロブ被った怪しげなおっサンたちに厳しい声をかけた。

「お前らの仕業か？どこから喚よんだ？」

おっサンたちは「ひっ…！！」とか言ってビクついて青ざめている。

「こいつら二人とも、明らかに我が大陸の者ではないだろう。しかも突然現れたのを俺もすっかり見ていたが？」

後ろ姿で見えないけど、言葉一つ一つが刺々しい。イケメンがお怒りだ。

しかしまあ低い美声がまたいい感じに耳にク。

オッサンたちの中でも一番年とってそうな、長い白いヒゲのオッサンがプルプルしながら一歩前に進み出た。

名前わかんないから命名「勇気あるオッサン」。

「お、恐れながら…」

「何の儀式をしていた？」

怒りを含んだイケメンの声に、勇気あるオッサンはこっちをチラリと見て、「お耳を…」と、イケメンに何やらゴニョゴニョ内緒話をした。

するとイケメンはピクリと反応し、真面目な顔して勇気あるオッサンと共にこっちを見てきた。

「余計なことを…」

「申し訳ありません。しかし私共もまさかこのような…」

「ではこの二人が？」

「いえ、どちらかかと」

意味深な会話が始まった。

「イケメンが見つめてくるよりッたん。何コレ脈あり？」

「見つめてねえし。明らかにじろじろ観察されてんだろ」

「でも心がときめく…」

「…はか？」

リッ
たん
冷た
い…!!
!!

始まり？（とりあえず。）

まあぶっちゃけて言えば。

うちら二人は花嫁候補として喚よばれたらしい。

うんありがちありがち。

誰のって、もちろんあのイケメンの。

そしてイケメンは王子様だった。

うんうん、王道王道。

けどさっきの姿からするとどっちかっつて言つと魔王だ。

魔お…じゃないケメン王子様の名前は…

「俺はリディアス・レイ＝ヴェール」

「んん？り、りで…」

「リディアスね」

ちよ、リツたん何で言えるの！

「…りです」

「リディアス、だ」

イケメ…じゃなくてリディアスが訂正を入れてくる。発音するとムズいんだよ！

「りでいあす」

「惜しい」

とリツたん。

「何か違う」

とリディアス。

「りでいあす？」

言えた？

首を傾げたら目の前にいたリディアスはニヤリと笑って、

ニヤリと笑って……

ちゅ。

ペロッ。

「仕方ないな、”リド”でいい、……シュリ？」

耳にキスして

あげく舐めて

囁きやがった。

は？私？

ええ、もちろん惚れましたけど。

だって胸がきゅんきゅんしたあー！！！！

なにこのチャラ男…！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8439y/>

JK(×2)が異世界へ行きました。

2011年11月26日00時57分発行